

遠藤 謙

ken endo

昭和53年沼津市生まれ。加藤学園暁秀初等学校、第三中学校、沼津東高校、慶応大学理工学部卒業。同大学院修士課程修了、マサチューセッツ工科大学博士課程修了後、ソニーコンピュータサイエンス研究所研究員に就任。平成26年に株式会社Xiborgを設立し代表取締役社長に就任。世界最速の競技用義足やロボット義足、途上国向け義足開発など世界を舞台に活躍中。平成27・28年度には沼津大使に就任、昨年8月には沼津市民大学講師を務める。



まずは知ってもらいたい

【市長】 技術的な研究開発以外で取り組んでいることはありますか。

【遠藤】 技術的に優れていても、認知されなければ存在しないことと一緒だと思います。そういった意味では情報発信に力を入れています。市長も情報発信の重要性を感じていますか。

【市長】 もちろんです。海をはじめとする地域資源やまちなかで開催される元氣あふれるイベントなどの魅力的なコンテンツを市内外に知って頂くこと、多様化するライフスタイルに合わせ、広報紙だけではなく、SNSなど様々な方法で情報を発信しています。

【遠藤】 最近市のSNSを見て何か変わってきたなと感じていま

能も見栄えも格段に良くなっているから、みんな気にしなくなっています。

【市長】 言われてみればそうですね。私もメガネをかけていますが、体の一部と言っているほど欠かさないものになっています。今ではおしゃべりして楽しむ人も増えていきますよね。そんな技術的、社会的な成熟を義足でも成し遂げたいですね。

【遠藤】 そうなんです！まだまだ義足の人とすれば違うと振り返ってしまおうと思います。でも、いつかメガネと同じように、義足の人がいっても気にならないくらいに生活の一部となり、「あの人義足だったか？」なんてフリーズが聞かれるよう、社会に浸透させていけたらと日々奮闘しています。

義足は特別じゃない

【市長】 「障害を個性として見る」ということはよく言われますが、実際にはなかなか難しいと多くの人が感じるでしょう。それがM-I-Tの先生が言う「技術が未熟」という環境であるのなら、遠藤さんが研究開発する義足をはじめ、障害に対する技術の進歩は社会にどのような変化をもたらすと思えますか。

【遠藤】 今、「障害」とされているハンディキャップが10年後には障害という概念から外れていくようになってきたらなと思っています。例えばメガネ。何十年前は視力が悪く、分厚いメガネをかけている人はどうしても目立っていました。でも今は、技術の進歩で性

ギソクの図書館

Blade Library

平成29年10月15日にオープンした、世界で初めて競技用義足を試し履きできる施設。自由に本を読むことができる図書館のように、子どもから大人までが様々な種類の義足を自由に履き、走ることができる。

遠藤さんが義足開発の道に進むきっかけとなった、高校のバスケット部の後輩である吉川和博さんがデザインしたロゴマークは「ギソク」とカタカナを使っており、「義足」という言葉が持つイメージや固定概念を取り払い、音だけが残るデザインとなっている。そこには、「ギソクの図書館」が、世の中に新しいギソクのイメージを発信する、始まりの場となるよう願いが込められている。



東京都江東区豊洲6丁目4-2
ブリリア
新豊洲Brilliaランニングスタジアム内
提供：株式会社Xiborg

誰もが走る楽しさを感じる

【遠藤】 僕は、取り組みを多くの人に認知してもらおうと資金を集めることを目的にクラウドファンディングを利用し、「ギソクの図書館」という施設をオープンしました。

【市長】 新聞で見えて気になっていませんか。どんな施設なんですか。

【遠藤】 競技用義足を気軽に試せる場所です。子どもは走りたい盛りなのに、競技用義足は高くてな

かなか買えない。しかも成長が早いので、半年後には使えなくなることもあります。

【市長】 日常用の義足ではスポーツにふれるのは難しいと思います。が、競技用義足を試せる場があれば気軽にスポーツを楽しむことができますね。

【遠藤】 走って誰もが走れるベキスポーツだと思っんです。スポーツは生活に潤いをもたらすものと信じているので、走りたいと思う人が走れる環境を作りたい。【市長】 必要としている人がいるにも関わらず、今まで注目されて来なかったんですね。

【遠藤】 競技用義足はアスリートのためというイメージが強いと思いますが、そうではないんです。子どもからお年寄りまで、みんな

に走ることを楽しんで欲しい。この図書館がきっかけになれば嬉しいです。

【市長】 きっかけですごく大事ですね。今あることを良くしていくことに加え、新しく始めることが大切ですね。

【遠藤】 ギソクの図書館も世界初ということで、国内はもとより海外からの反響がとて大きいです。オープンイベントに来てくれた海外メディアの作った動画がオンライン公式ウェブチャンネルで取り上げられ、一気に話題が広まり各国から問い合わせが殺到しています。

【市長】 身近な人の力になりたいと思ったことが、ワールドワイドに注目を集める。まさに世界への挑戦ですね。

